

じいちゃんのお友達

大村小 四年

加倉井

瑛太

「今年もまっすぐ植えてるねえ。」

「本当に上手だね。」

ぼく達は、じいちゃん家の二階に住んでい  
るので、目の前の田んぼがよく見えます。

毎年、じいちゃんのお友達が、お米を作っ  
てくれていきます。田植え機に乗って、まっす  
ぐに植えていくのが一番かっこいいです。ザッ  
ザッと田んぼにささっていく感じが、ぼ

No. 2

No. 1

くは気持ちがよくて、じーっと見てしまいま  
す。お茶の時間になると、じいちゃんのお友達は  
んべいを食べて休けいします。ぼくも、おかし  
しをもらいに行くと、

「今度、かふと虫とってきてやっからない  
と、ぼくに言うてくれます。」

朝の五時か六時になると、ぼくはわていで  
気づかないけど、「バタン」と軽トラのドア  
の音がするそうです。たまに早起きをした時  
は、二階から見ていると、水がでてくるじゃ

口のせんを開けて、ジャージャーとてくるよ  
うにしています。おじちゃんの水を見てくれるから、苗も  
ブルルに入ってる見たいで気持ちよさそう  
だね。

と、お母さんが言います。ぼくは、本当にそ  
うだなぁと思います。たまにやってくるカモ  
の親子もすいすいと泳いでいます。この辺に  
住んでいるキジの家族も、水のじゃ口の近く  
で、よく、カッカッ、となっています。おた

まじやくしもこの辺にいるので、毎年つかま  
えます。ニ階<sup>ビ</sup>から見ると、水がかがみのよ  
うに見えて、風が少しふくと波がてて、とて  
もきれいです。田んぼの水は、苗も、生き物  
もよろこぶからすこいと思います。

稲カリが終わると、軽トラに大きな茶色い  
袋をたくさんつんで持ってきてくれます。ひ

よいと持ち上げて、えん台の所においてくれ  
ます。

今年もいっぱい食べようよ。

と、日にやけた顔のじいちゃんのを達は、よくに言いました。うん、しか言えなから。たけど、作るの大へんだからのこさず食べるよ、ありがどう。と心の中では思っています。ばくは、白いたきたてごはんの上に、お母さんの作ったきぼろをのせて食べるのが大好きです。必ずニはいは食べます。茶わんに、どうして米つぶがのこってしまうので、木のスプーンでさいごまできれいに食べるようにしています。そうすると、なせかばくの心も

スツキリきれいになります。

ニ階どからいつもじいちゃんの友達ががんばって米作りをしているのを見ていました。大へんそうだけど、楽しそうにも見えませんでした。少し前に、急に天国にいったしまして、ばくは悲しくなりました。田んぼのそばには、いつもじいちゃんちゃんの友達がいて、鳥や生き物もいて、ばくはそれがあたり前だと思っています。毎年おいしい米を作ってくれて、本当にありがどうと思っと思っています。